

第4回全国少林寺拳法指導者研修会



白帯の受講生による模擬授業実践

平成28年9月17～19日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）において、全国で少林寺拳法を指導する中学・高等学校の教員および社会体育指導者を対象に第4回全国少林寺拳法指導者研修会〔主催＝（公財）日本武道館・（一財）少林寺拳法連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕が90名の参加者を得て開催された。

■1日目（9月17日）



川島会長

主催者挨拶では、はじめに川島一浩少林寺拳法連盟会長が意気込みを述べた。

「会長に就任し、初めての研修会となります。若手指導者育成と中学校武道必修化に対応した研修会として講師陣

は全力を尽くしますので、受講生の皆さんも真摯な態度で臨んでいただき、多くのことを学び、吸収し、地元に戻って少林寺拳法を広めていただきたいと思います」

続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が武道必修化の現状報告を踏まえ、次のように述べた。

「次回の学習指導要領改訂で現代武道9種目が明記されることがほぼ決定しました。武道授業の継続実施と各種目が平等に扱われるということです。また、各武道とも指導はほとんど未

経験者が実施している現状です。日本武道協議会設立40周年を記念して、武道全種目を網羅した指導書3巻（DVD付）を作成し、全ての中学校と教育委員会へ無償配布を予定しております。これを活用いただき、少林寺拳法の魅力を伝えていただきたいと思います」



三藤理事・事務局長

引き続き、宗由貴特別講師による講義Ⅰ「生きる力をサポートする少林寺拳法」が行われ、創始から現在に至るまでの経緯とこれからの展望について次のように述べた。「1947年に創始した当初、少年部は5名でした。第2次ベビーブームを受け、多くの子供たちが入門するようになりました。当時から熱のこもった少年指導に取り組んだ結果、日本国内人口割合と比較すると、少林寺拳法を修練する年齢別の割合は19歳以下65パーセント以上、60歳以上6パーセント未満と逆転現象が起きているのが現状です。今後は日本における超少子高齢化時代に向け、教えと技法を楽しみながらステップアップする教育プログラムの確立を目指します。皆さんには武道授業の中で中学生に対し、生きる力を与えられるようにチャレンジしてほしいと思います」

次に堀切忠和特別講師による講義Ⅱ「安心し

て指導に臨むための法的基礎」が行われた。実際にあった判例を基に教育現場に関わる際の注意点を説明した。「責任を問われるような事故は何が起きたかより誰のどのような指示で起きたのが問題視される時代になってきている。悪い予感はずかしくせず、危険を感じたら速やかに現場の対応マニュアルに従い、連携を取りながら未然に防ぐことを第一に心がけてほしい」と述べ、安全管理に対する心構えについて解説した。

■2日目 (9月18日)

武道必修化班と有段者班の2班に分かれ実技を中心とした研修を行った。武道必修化班では中島正樹講師が礼法や着座といった基本動作と剛法を実施する上での安全な指導法、柔法の原理を紹介した。参加者全員を対象に模擬授業を行い、一日の成果を披露した。

その後、「(一財) 少林寺拳法連盟の使命と在り方」と題し、川島講師が会長講演を行った。



■3日目 (9月19日)

初日の夕食後に12班に分かれ行われた班別討議の3つのテーマ(①魅力ある指導者について、②魅力ある(支)部について、③将来指導者として育つ為の日常的な仕掛けについて)を3つの班が代表し、討議内容を発表した。

休憩の後、中島講師による講義「効果的な授業方法」が行われ、次のように述べた。

「指導法は日々進化している。新学習指導要領では生きる力をどう育てるかが重要視されている。授業の目標と課題を考え、情報を読み取り、どう切り込んで表現するかを検討していかなければならないと考える。今回初心者の先生に模擬授業を行ってもらったが、未経験の指導者の躰がどこにあるかわかった。今後は未経験者が少林寺拳法の授業を実施する場合、教員の指導力についてはそれを補う資料・指導書を作成し、それを活用すればできる。また、武道場の整備については場の教育力を高める工夫をし、どこでも道場として実施できることを伝

えていきたい」

【参加者の声】

◆今回の研修内容が中学校武道必修化に対応した技術指導やトラブル解決法、危機管理方法などいろいろな面で勉強になりました。参加する前は、自分自身の技術向上が目的でしたが、今回参加して同年代でスポーツ少年団や道院の「長」として活躍している人がたくさんいることを知り、良い刺激になりました。一番の収穫はたくさんの仲間に出会えたことで自分の気持ちが変わったことだと思います。この「縁」を活かし、自分の理想とする指導者像を目指し、頑張っていきたいと思います。(30代・男性)

◆スポーツ少年団を立ち上げ、三年になります。幸い大きな事故や保護者とのトラブルはありません。しかし今回の講義を受け、いろいろなケースを想定しておかなければならないことを再認識しました。班別討議では実際に体育授業を経験された先生の話や未経験者の生の声を聞くことができ大変勉強になりました。今後どのように指導していけばよいのか少し見えてきた気がします。今後は一人でも多くの子供たちに少林寺拳法の素晴らしさを伝え、指導者の卵を育てていけるよう、自己研鑽にも励みたいと思います。(50代・女性)

◆今回初めて参加しました。改めて中学校の授業に少林寺拳法を入れることの大切さを知ることができました。私自身が中学校で指導しているわけではありませんが、班別討議では実際にどう指導していくべきか、経験者の先生から現場の声や全国各地の様々なスポーツ少年団や道院の運営状況現状などの話を聞くことができ、これからの課題が見えた気がします。中島先生の講義を聞いて生徒にいろいろ考えさせながら授業をするアクティブラーニングがとても参考になりました。今後、自分が中学校で少林寺拳法を教える機会があれば、研修会で学んだことを活かしていきたいと思います。(20代・男性)

